

7 疾病 5 事業 在宅医療に関すること

各地域の現状 (できること、できないことの確認)	現状から見える課題と対応策(案) (医療資源の不足を補うための具体策)
<p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○南駿地域の人口（平成 29 年 4 月 1 日現在）は 319,662 人（沼津市 192,692 人、裾野市 52,133 人、清水町 32,308 人、長泉町 42,529 人）である。 ○高齢化率（平成 28 年 4 月 1 日現在）は 26.8%（沼津市 29.1%、裾野市 23.9%、清水町 24.3%、長泉町 21.2%）（県平均 27.6%）である。 ○高齢者世帯の割合は、沼津市 27.0%、裾野市 7.8%、清水町 17.8%、長泉町 19.2%であり、沼津市以外は県平均(23.6%)を下回っている。（平成 28 年 4 月 1 日現在） ○一人暮らし高齢者の割合は、沼津市 15.7%、裾野市 3.6%、清水町 9.2%、長泉町 9.4%であり、沼津市以外は県平均（12.8%）を下回っている。（平成 28 年 4 月 1 日現在） ○医療施設数は、16 病院、医科診療所 241 箇所、歯科診療所 198 箇所となっている。（平成 29 年 5 月現在） ○診療所の医師数は 253 名で、内、60 歳以上が 46.2%、70 歳以上が 13.4%となっている。平均年齢は、沼津市 58.55 歳、裾野市 60.21 歳、清水町 57.67 歳、長泉町 62.71 歳である。（平成 28 年 4 月現在） <p>【総論】</p> <p>急性期医療（がん、脳卒中、心筋梗塞等）については、ほぼすべての領域に対応できる基幹病院が 2 病院あるとともに、個別の疾病に強みを持った病院（静岡がんセンター、西島病院、岡村記念病院、聖隷沼津病院）があり、かなり充実している。但し、喘息については、専門治療に対応できる病院が 1 病院のみであること、また、精神疾患については、身体合併症に対応できる病院が少ないことが課題として挙げられる。</p> <p>【がん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○静岡がんセンター、静岡医療センター、沼津市立病院が五大がん等の集学的治療を担っており、静 	<p>【がん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域内に県の拠点病院である静岡がんセンターがあり、急性期治療や緩和医療などすべての

7 疾病 5 事業 在宅医療に関すること

各地域の現状 (できること、できないことの確認)	現状から見える課題と対応策(案) (医療資源の不足を補うための具体策)
<p>岡がんセンターは緩和ケア病棟を有している。また、在宅療養（ターミナルケア）を担う診療所が 27 箇所(沼津市 15、裾野市 6、清水町 4、長泉町 2) あり対応している。</p> <p>○平成 26 年度の 5 大がんの検診受診率は、概ね県平均を上回っており、中でも裾野市と清水町はすべての部位で県平均を上回っている。(但し、圏域全体で見ると、精密検査の受診率が低い部位がある)</p> <p>【脳卒中】</p> <p>○ 静岡医療センター、沼津市立病院、裾野赤十字病院、聖隷沼津病院、西島病院が脳卒中の「救急医療」を担っている。また、静岡医療センター、沼津市立病院、沼津リハビリ病院、西島病院が「身体リハビリテーション」を担っている。</p> <p>○ 在宅療養を支援する診療所は 20 箇所(沼津市 10、裾野市 6、清水町 3、長泉町 1) あるが、身体機能を回復させるリハビリテーションを担う医療機関はない。</p> <p>【心筋梗塞等の心血管疾患】</p> <p>○静岡医療センター、沼津市立病院、岡村記念病院が心筋梗塞等の救急医療を担っている。岡村記念病院は心疾患の専門病院として、術後のリハビリを含めた医療に対応している。</p> <p>【糖尿病】</p> <p>○静岡医療センター、沼津市立病院、裾野赤十字病院は、糖尿病の専門治療が 24 時間対応可能である。その他、血糖コントロール不可例などの治療方針の決定が可能な病院が 3 箇所ある。</p> <p>【ぜん息】</p> <p>○沼津市立病院は、管理困難患者への対応などぜん息の専門治療に対応可能である。また、聖隷沼津病院は、24 時間呼吸管理など一部の治療に対応可能である。</p>	<p>分野において充実しているが、一方で、今後の在宅医療の需要を見据えた場合、ターミナルケアを担う診療所をさらに増やしていく必要がある。</p> <p>○5 大がんの受診率は、概ね県平均を上回っているが、がん予防対策には早期発見、早期受診が最も重要であるため、精密検診の受診率を高めるため、市町を中心に引き続き受診勧奨に努める必要がある。</p> <p>【脳卒中】</p> <p>○急性期、リハビリ、在宅診療に至るまで充実しており、引き続き、連携パスを活用した取組みを推進していきたい。</p> <p>【ぜん息】</p> <p>○喘息の専門治療に対応できる医療機関を増設するとともに、呼吸器専門医を確保する必要がある。</p>

7 疾病 5 事業 在宅医療に関すること

各地域の現状 (できること、できないことの確認)	現状から見える課題と対応策(案) (医療資源の不足を補うための具体策)
<p>【肝炎】</p> <p>○静岡医療センター、沼津市立病院は、肝生検等の専門的検査による治療方針の決定及び24時間体制で肝不全への対応が可能であり、地域肝疾患診療連携拠点病院に指定されている。また、聖隷沼津病院は早期発見・専門的治療など一部に対応可能である。</p> <p>【精神】</p> <p>○精神科病床を有する病院が2箇所（沼津中央病院、ふれあい沼津ホスピタル）ある。そのうち、沼津中央病院は、県東部地域の「精神科救急医療」を担う医療機関となっている。</p> <p>○駿東田方圏域で身体合併症に対応できる病院は沼津市立病院と順天堂静岡病院の2施設のみであり、他に担える施設を増やすことが期待される。なお、一般病院で精神科の常勤医師がいるのは静岡がんセンターのみである。</p> <p>○静岡医療センター、沼津市立病院、沼津中央病院、沼津リハビリ病院、西島病院において「高次脳機能障害」の診断が可能である。</p> <p>○平成28年4月1日、静岡医療センターが認知症疾患医療センターに新たに指定された。</p> <p>【救急医療】</p> <p>○平日夜間及び土・日、祭日などの時間外の救急体制は、1次救急として、沼津夜間救急医療センターが「内科、小児科、外科」の時間外診療に対応するとともに、医師会の各診療所が参加した輪番体制で対応している。</p> <p>○2次救急は、静岡医療センター、沼津市立病院、聖隷沼津病院、裾野赤十字病院、西島病院、岡村記念病院が参加した輪番体制が敷かれている。</p> <p>○3次救急は、沼津市立病院が救命救急センターに指定されている。施設基準に適合した「集中治療室」を有しているのは、静岡医療センター、沼津市立病院の2箇所である。</p>	<p>【精神】</p> <p>○精神の身体合併症を担う医療機関を増設する必要がある。</p> <p>○今後、高齢化がすすむ中、認知症の患者も増加することが予想される。このため、認知症疾患センターと福祉、医療、介護との連携を更に図り認知症対策を強化する必要がある。</p>

7 疾病 5 事業 在宅医療に関すること

各地域の現状 (できること、できないことの確認)	現状から見える課題と対応策(案) (医療資源の不足を補うための具体策)
<p>○ 救急告示病院は、沼津市立病院、聖隷沼津病院、西島病院、瀬尾記念・慶友病院、田沢医院、勝呂医院、裾野赤十字病院、静岡医療センター、岡村記念病院、池田病院の 10 施設である。</p> <p>【災害医療】</p> <p>○ 災害拠点病院に静岡医療センター及び沼津市立病院が指定されている。</p> <p>○ 救護病院として、沼津市内で 6 病院、裾野市内で 1 病院、清水町内で 2 病院、長泉町内で 2 病院が指定されている。</p> <p>○ 災害医療を担う救護病院の中で、津波浸水域に立地している病院が 3 病院（聖隷沼津、瀬尾記念、沼津リハビリ）あるため、対策が必要である。</p> <p>【へき地医療】</p> <p>○ 過疎地域に指定されている沼津市戸田地区に公設民営の戸田診療所(内科、外科、小児科、皮膚科)が設置されている。入院医療や夜間休日の診療については、周辺の医療機関で対応しており、沼津市立病院までの搬送時間は 40 分を要する。今後、住民の疾患別医療需要を考慮した診療科目の拡充が期待される。なお、29 年 3 月から、フジ虎ノ門整形外科病院の医師が週 1 回、整形外科の診療を担当している。</p> <p>【周産期医療】</p> <p>○ 正常分娩を担う病院として、沼津市立病院と聖隷沼津病院の 2 施設があり、沼津市立病院は「地域周産期母子医療センター」として県東部地域全体をカバーしている。なお、静岡医療センターは 28 年 1 月から分娩の取扱いを中止している。</p> <p>○ 正常分娩を担う診療所は、沼津市に 3 箇所、裾野市に 2 箇所、清水町に 1 箇所、長泉町に 1 箇所あり、すべての市町で整備されている。</p> <p>○ 平成 27 年次の 2 市 2 町の出生数は 2,539 人であり、分娩実績は、静岡医療センター 24 件、沼津市立病院 351 件、聖隷沼津病院 266 件(病院合計 641 件)、</p>	<p>【災害医療】</p> <p>○ 沼津市内の津波浸水域に立地する救護病院について、代替機能を果たす医療機関の確保など、発災時の具体的な対応策について検討する必要がある。</p> <p>【へき地医療】</p> <p>○ 戸田診療所について、整形外科に引き続いて、住民の疾患別医療需要を考慮した診療科目(眼科、耳鼻咽喉科、婦人科など)の拡充が期待される。</p> <p>【周産期医療】</p> <p>○ 地域内の需要は満たされているが、駿東田方圏域や県東部地域全体の需要に応える観点から、静岡医療センターにおける分娩取扱いの再開が期待される。</p>

7 疾病 5 事業 在宅医療に関すること

各地域の現状 (できること、できないことの確認)	現状から見える課題と対応策(案) (医療資源の不足を補うための具体策)
<p>沼津市内診療所 588 件、裾野市内診療所 785 件、清水町内診療所 608 件、長泉町内診療所 452 件(診療所合計 2,433 件)、総合計 3,074 件であり、当該地域の出生数には十分対応できている。</p> <p>【小児医療】</p> <p>○小児専門医療に対応できる病院として、静岡医療センター、沼津市立病院、聖隷沼津病院の 3 施設があり、輪番で小児の 2 次救急医療に対応している。なお、沼津市立病院は、「救命救急センター」として県東部地域全体を対象に小児の 3 次救急にも対応している。</p> <p>○休日時間外における小児の軽度の初期救急医療については、沼津夜間救急医療センター及び医師会所属診療所による輪番体制で対応している。</p> <p>【在宅医療】</p> <p>○在宅医療を支援する医療機関として、在宅療養支援病院が 1 ヶ所、在宅療養支援診療所が 34 ヶ所、在宅療養支援歯科診療所が 26 ヶ所、在宅患者訪問薬剤管理指導料対応薬局が 148 ヶ所ある。(平成 29 年 5 月 1 日現在)</p> <p>○在宅医療を支える上で重要な役割を果たす訪問看護ステーションは沼津市 14 箇所、裾野市 2 箇所、清水町 2 箇所、長泉町 4 箇所で設置されている。但し、中小規模のステーションが多い。(平成 29 年 5 月現在)</p> <p>○在宅医療を実施している医療機関 (28 年度往診・訪問診療実績、月平均実績 1 名以上) は、沼津市 29 箇所 (17.2%)、裾野市 8 箇所 (21.6%)、清水町 4 箇所 (16.0%)、長泉町 6 箇所 (22.2%) である。</p> <p>○死亡者数に占める自宅で死亡した者の割合(平成 26 年実績)は、沼津市 12.5%、裾野市 12.1%、清水町 7.9%、長泉町 13.9%であり、長泉町以外は県平均 (13.2%) を下回っている。</p>	<p>【在宅医療】</p> <p>○訪問診療を担う診療所を増やすとともに、訪問看護ステーションの集約化を進め、また、住民への普及啓発などを踏むことを通じて、在宅診療と在宅看取り体制の充実を図る必要がある。</p>

医療機関の役割分担、病床機能等に関すること

各地域の現状
(できること、できないことの確認)

現状から見える課題と対応策(案)
(医療資源の不足を補うための具体策)

○平成 28 年病床機能報告結果を見ると、2 市 2 町合計で以下の状況となっている。(精神病床は除く)

	病床数	構成比	H37 構成比 (圏域全体目標)
高度急性期	584	23.4%	12%
急性期	1412	57.4%	32%
回復期	96	4.0%	32%
慢性期	368	15.0%	24%

駿東田方圏域全体と比べて、急性期の機能はかなり充実しているが、慢性期の機能はやや少なく、回復期の機能はかなり少ないことが窺える。

○現状で「回復期」を担っている病院(平成 28 年病床機能報告結果)は、沼津リハビリ病院 (54 床)、瀬尾記念・慶友病院 (42 床)のみであり、裾野市、清水町、長泉町には全くない状況である。

○地域包括ケア病床を持っている病院は、聖隷沼津病院(44 床)、裾野赤十字病院(26 床)、沼津市立病院 (50 床)、回復期リハビリテーション病床を持っている病院は、沼津リハビリテーション病院 (54 床)、瀬尾記念・慶友病院 (42 床)であるが、今後、これらの機能を担う医療機関を増やしていく必要がある。(平成 29 年 6 月現在)

○訪問診療の実績と平成 37 年度必要量との比較

	平成 28 年度 訪問診療月平均	平成 37 年度 訪問診療目標量
沼津市	928(人/月)	1002(人/日)
裾野市	271(人/月)	252(人/日)
清水町	33(人/月)	143(人/日)
長泉町	145(人/月)	166(人/日)

○地域の中小病院で急性期機能を担っているところを中心に、回復期機能への移行を検討していただく。

○地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病床を担っていただく医療機関の増設を図る(基金の活用)。

